

13. 甲状腺癌転移症例におけるタリウムシンチ ——早期像と遅延像の比較——

仙田 宏平 嶋田 博 横山 恵太
近藤 公雄 大島 治泰 丸山 邦弘

(国立名古屋病院・放)

手術などで転移を確認した甲状腺癌 18 症例のタリウムシンチの早期像と遅延像について、リンパ節、骨および肺転移巣、それぞれ、13, 5 および 4 部位における Tl 摂取および洗い出しの程度をスコア化して、原発巣のそれと比較して評価し、転移巣の特徴を検討した。タリウムシンチは、Tl-201-chloride 222 MBq を静注し、約 20 分後に早期像を、また 3 時間に遅延像を撮像し、約半数例で ECT を追加した。いずれの転移巣も、原発巣と比べて、早期像では Tl 摂取がより高く、また遅延像では洗い出しが早かった。したがって、甲状腺癌の転移の検出には早期像が、遅延像と比べてより有効であった。また、ECT を追加する場合は早期像の時点で施行すべきであろう。

14. 肝細胞癌における ^{99m}Tc -PMT 肝胆道シンチグラフィ陽性像の経時的变化の検討

奥村 恭己 高木 等 金森 勇雄
(大垣市民病院・放技)

中野 哲 武田 功 熊田 卓
杉山 恵一 (同・消化)

今回われわれは、 ^{99m}Tc -PMT 肝胆道シンチグラフィにて、肝細胞癌に集積した陽性例 116 例の経時的变化について報告した。肝細胞癌における本法の陽性率は 60% であった。early stage での ^{99m}Tc -PMT の取り込みは、腫瘍部では周辺肝臓部と同程度か、それよりも減少あるいは遅延していた。delayed stage での腫瘍部の陽性像は、周辺肝臓部との ^{99m}Tc -PMT の胆道系への排泄速度の差によるものと考えられた。early stage から集積像が見られた場合、腫瘍による胆道狭窄および閉塞のため、排泄障害された領域が生じ、これが集積像となった可能性も考慮する必要があると考えられた。

15. ^{99m}Tc -PMT 全身シンチグラムによる転移巣の検出 ——非肝細胞癌についての検討——

伊藤 清信 外山 宏 駒井 哲之
中村 元俊 鶴飼起久子 竹内 昭
古賀 佑彦 (保健衛生大・放)

他のシンチグラムで転移巣陽性と診断された肝細胞癌以外の悪性腫瘍 2 例について、 ^{99m}Tc -PMT シンチグラムを行い、その特異性について検討した。転移巣の一部のみに一致して、30 分後のイメージで、淡い PMT の集積亢進が認められた。これは 4 時間後のイメージでは不明瞭となり、pooling による影響が疑われた。

これに比べ肝細胞癌の転移巣への集積は、より濃く、明瞭に描出され、骨シンチグラム、ガリウムシンチグラムより陽性率も高い。 ^{99m}Tc -PMT は hepatoma の転移巣に比較的特異的に集積すると考えられる。病理学的、画像学的に、hepatoma と診断された患者の転移巣検索に ^{99m}Tc -PMT は有用と思われた。

16. $^{201}\text{TlCl}$ と $^{99m}\text{TcO}_4^-$ 経直腸投与による下腸間膜静脈血流動態の観察

利波 紀久 中嶋 憲一 久田 欣一
(金沢大・核)
小林 健一 (同・内)

Tl-201 と Tc-99m pertechnetate を経直腸的に投与し肝疾患における下腸間膜静脈の血流動態の解明を試みた。門脈大循環短絡の程度を反映する Tl-201 心・肝比が高値になると Tc-99m シンチグラムで下腸間膜静脈の描出は概して不良であった。Tc-99m シンチグラムで下腸間膜静脈の描出を認めない群の Tl-201 心・肝比は明瞭に認めた群より著しく高値であった。しかし、高い Tl-201 心・肝比を示した群のなかに下腸間膜静脈の見られた症例があり、これらでは下腸間膜静脈血流は求肝性に流れ、上部門脈で形成された大循環への短絡を経るものと考えられた。下腸間膜静脈の描出を認めない群では下腸間膜静脈血は遠肝性に流れ、主として下腸間膜静脈下部で形成された短絡路を経て大循環系へ流出した。下腸間膜静脈の描出のない群で Tc-99m シンチグラムで下大静脈が明瞭に描画された症例があり、下腸間膜静脈末梢と下大静脈の短絡路への流出を直接的に示すものであった。この二つのアイソトープによる経直腸投与法は下腸間膜静脈血流動態の異常について非常に有用な情報を提供することが判明した。